



第4次アクションプラン 全国の農業高校の新戦略 グローバル・アグリハイスクール宣言Part II			自校のスクールアクションプラン						
農業高校の ミッション (目指す学校像)	行動計画 (目指す学校像の具現化に向 けて)	キーワード (該当ワードを○で囲む)	学科名	本年度重点取組	具体的方策(5W1H明記、数値目標奨励(年度末ABCDE評価の根拠))	SDGs 目標 NO.	評価 (ABC DE)	次年度の主な課題	
農業高校 グローバル アグリハイスクール宣言 ○○○○○ 地地地地グ 域域域域口 防交環社！ 災流境会力 をのを・ル 推拠守産教 進点り業育 すと創にで るな造寄人 学するす材 校学するす 校学て 校る 学校	1	生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育	食農科学 科	進路実現	キャリア教育を推進し、実践的な職業感や勤労意欲を醸成するために、生徒は進路ガイダンスや進路講話を通して進路研究に取り組む。また、11月上旬に関連企業において、インターンシップを実施する。評価については、関連産業への就職及び上級学校への進学をもとに評価を行う。	8 4	A	生徒一人一人の進路実現に向けた丁寧な進路指導とインターンシップや応募前職場見学を積極的に実施し、進路実現の充実を図る。	
	2	世界と日本をつなぐグローバル教育	食農科学 科	グローバル教育	生徒は朝倉・うきは地区の基幹産業である農業及び関連産業の魅力を理解し、地域に貢献できるグローバルな視点をもつことを目指す。地域イベントでの販売・PRや研究活動、ボランティア活動等に取り組む。評価については、学校HPの更新及び各種活動状況をもとに評価する。	11	A	地域のイベント活動に参加し学校PRと地域貢献に努めた。この体験を通して、自己肯定感や職業観の醸成を図る。	
	3	地域農業の生産を支える教育	生物生産、特産物、 GAP、経営	食農科学 科	GAP	生徒が朝倉市の農業や関連産業について学ぶため、地域との連携や人材を活用し、地域の実態を理解する。また、GAP教育をとおして、食品衛生や環境保全、農業経営を学習することで、正しい生産技術や管理方法を身につけるとともに、経営改善を図る能力を身につける。評価については、GAPの認証取得や更新を行うことで評価する。	11 12	B	農場運営の改善と効率化を推進するため、GAP認証制度とGAP教育の充実・推進を図る。今年度も水稲栽培「イネ」でGAP取得に向け申請中。
	4	地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育	地域貢献、6次産業化、 食農教育、経営、HACCP	食農科学 科	食農教育	生徒が近隣の小学生を対象に野菜作りを教えることで、農業の大変さや食品の大切さに関する食農教育を推進する。評価については、小学校からの聞き取りや授業アンケートをもとに評価する。	15 9	B	アンケート結果から食農の関わりを強く感じており、今後も栽培作物の種類を増やし、種まきから収穫までの栽培体験を通して食の大切さや食品ロスの問題や環境問題について学ぶ機会にしていく。
	5	地域環境を守り、創造する教育	環境創造、国土保全、 循環型農業、循環型社会	食農科学 科	循環型農業	生徒が環境に配慮した循環型農業の目的や取り組みを推進するために、総合実習や栽培管理を伴う科目の学習をとおして安全・安心な農産物を生産するための学習に取り組む。その学習をとおして、循環型農業を推進するために家畜の排泄物である堆肥を施用する。評価については、化学肥料や農薬の使用料や使用回数をもとに評価する。	12	B	堆肥等の有機肥料の施用を推進し、減農薬を意識した栽培管理を実施した。今後も継続し栽培作物の残渣の有効活用も考えていきたい。
	6	地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育	地域資源活用、特産物、 地域交流、食農教育	食農科学 科	地域交流	生徒がつるフェス・あさくら祭り等の各種イベントに参加し、地元の方や地元企業との連携や交流を通して地域の発展に貢献する。評価については、参加者からの聞き取りやアンケートをもとに評価する。	9	A	地域のイベントを通して主催者や参加者からは高い評価を得ており、今後も参加を継続しながら農業教育の大切さや魅力を発信していく。
					地域資源活用	生徒が間伐材を利用した消毒用スタンドや収納箱などを製作するとともに、「地域資源活用」や「素材活用」において地域資源を有効活用した商品開発の研究に取り組む。評価については、製作時の取り組み内容や完成品の発表をもとに評価する。	15	B	文化祭や朝倉市と連携した地域イベントにおいてに間伐材や流木を活用したDIY作品を展示することができた。今後も関係機関との連携を継続し地域振興に取り組む。
	7	Society5.0の時代に 応じた教育	スマート農業、 ICTを用いた学習	食農科学 科	ICTを用いた学習	生徒がタブレット端末を活用し、「農業と環境」や「課題研究」「総合実習」において、農作物の生育調査や観察の記録を蓄積し、記録をグループや全体で共有・分析することで、栽培方法の改善等の研究成果をまとめ発表会を行う。評価については、発表内容やスライドの完成度をもとに評価する。	4 9	B	「農業と環境」「課題研究」「総合実習」等の科目において、栽培作物の生育調査やプロジェクト研究に活用することができた。今後もデータの集積と情報の共有を図り、実験・実習を展開する。
8	地域防災を推進する教育	地域防災、 多面的機能	食農科学 科	多面的機能	生徒が地域の防災と多面的機能について目的や大切さを理解するため、「地域資源活用」や「素材活用」において、森林保全を行う一つの方法として間伐材を活用した木工品を製作する。評価については、製作時の取り組み内容や完成品の発表をもとに評価する。	15	B	地域資源活用の授業において、森林組合や朝倉市の職員を招いて、災害復興の現状や今後危惧されることについて説明を受けた。今後も、森林保全の一助として間伐材を有効活用した作品を製作する。	

※本プランは全国農業高等学校長協会「第4次アクションプラン」の規定により、各学校ホームページにて公表、年度末に福岡県教育委員会に報告します。また、福岡県農業教育研究大会誌にも毎年掲載(情報共有)します。

★作成・提出の流れ

①各学科は「行動計画1～8」のうち必ず1つ以上「本年度重点取組」「具体的方策」を記載する。②毎年度始めに「本年度重点取組」「具体的方策」を各学科全職員、次に農務部全職員で協議して作成し、4月30日までに校長会第1研究委員会事務担当者に提出及び各校のHPに掲載する。③毎年度末に「評価」「次年度の主な課題」を各学科全職員、次に農務部全職員で協議して作成し、2月10日までに校長会第1研究委員会事務担当者に提出及び各校のHPに掲載する。④令和8年10月から本取組についての検証を行い総括する。

★「評価ABCDE」の基準：A 90～100%の成果を得られた B 70～89%の成果を得られた C 40～69%の成果を得られた D 10～39%の成果を得られた E 0～9%の成果を得られた